



世界農業遺産認定記念シンポジウム



『世界農業遺産の認定と今後の活用策を考える』 ～「たたら製鉄を起源とした奥出雲の農業」の可能性～

日 時 令和7年12月20日（土）13時30分～16時30分 予定
会 場 カルチャープラザ仁多 3階 大集会室 （仁多郡奥出雲町三成）

目 的 「たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業」が平成31年2月、日本農業遺産に認定され、たたら製鉄を起源とした奥出雲の農林畜産業が、令和7年8月、国連食糧農業機関（FAO）より、世界農業遺産に認定されました。世界的にも重要な農業システムとして「世界農業遺産認定証」を受け、今後、認定を活かした取組が期待されています。

奥出雲町が発足20年の節目を迎え、高齢化による農業の担い手不足など課題もある中、世界農業遺産に認定された意義や今後の活用策、奥出雲の次世代にどのように継承していくかなど、参加者とともに考えます。

主 催 奥出雲町農業遺産推進協議会 / 共 催 奥出雲町・奥出雲町教育委員会

参加者 約200名（農林畜産業の関係者、商工・観光業の関係者、行政関係者、地元住民ほか）

内 容 ●「世界農業遺産認定証」の披露

講 演

①「農業遺産の保全・活用と未来への継承」

講師 東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授
世界農業遺産等専門家会議 委員長 八木 信行 氏

《経歴》 農林水産省世界農業遺産等専門家会議の委員長などを務める。国連食糧農業機関（FAO）世界農業遺産の科学助言グループ委員（2019-2023年）、2022年は議長を務める。専門は、地域開発論、水産経済学、マーケティング。



②「たたら製鉄が生み出した奥出雲の農業、今後の展望」（仮）

講師 京都大学人文科学研究所 教授 藤原 辰史 氏

《経歴》 1995年 島根県立横田高校卒業、1999年 京都大学総合人間学部卒業、2025年 京都大学人文科学研究所教授。著書に「縁食論」、「食べるとはどういうことか」、「分解の哲学」、「ナチス・ドイツの有機農業」、「カブラの冬」など。専門は農業史、食と農の思想、ドイツ現代史。



パネルディスカッション 「奥出雲の魅力とは何か、どのように発信するか」

コーディネーター 教育テック大学院大学 教授 大和田 順子氏

《経歴》 世界農業遺産専門家会議委員を歴任。総務省地域力創造アドバイザー。2025年4月から教育テック大学院大学 教育経営コース主任・教授。専門はソーシャル・イノベーション、地域デザイン。

パネリスト 町内の農林畜産業者 商工業・観光業を实践される皆様



※ 一般参加者の駐車場は、奥出雲町役場仁多庁舎前の駐車場をご利用ください。（徒歩3分）
カルチャープラザ横駐車場、JAしまね仁多支店、仁多郡森林組合は指定車両の駐車を予定

〔問合せ・申込先〕 奥出雲町農業遺産推進協議会 島根県仁多郡奥出雲町役場
農業振興課 電話 0854-52-2679 FAX 0854-52-2677